

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■123■

先日、隣の長野県をドライブしていたときのことである。山道のカーブの手前で、道端の女性がカーブの向こうを指さしながら大きな声で誰かに声をかけていた。「誰かいるのかな」と思つてアクセルを緩めながらカーブに入ると、そこには車道をのんびり歩く猫がいた。

## 土地ごとの違い

その女性は、人ではなく猫に「車が来てるよ、逃げなさい!」と声をかけていたのだ。なんと優しい方だろうと思いが、私はその猫が道を横切るのを待った。

長野は群馬と同じ海な

し県だが、訪れてみると景色は全く違う。群馬も山は多いが南や東の地域には平地が広がり、真つすぐで見通しの良い道路

# かわいい子には旅を

が整備されている。一方、長野では山に囲まれた町村が多く、そこでは山道に沿つて山を生業とする人々の暮らしが息づいている。見通しが悪いカーブで猫にも声をかける優しさは、長野ならではの光景と思つた。

その土地それぞれに特徴があり、そこに住む人

々の暮らしも違う。冬には太平洋側気候でカラツと晴れた群馬から、関越トンネルを抜けて新潟に入ると空が雲に覆われて雪が降っていることは珍しくない。「なぜ向こうとこつちでこんなに天気が違うのか」と疑問に思うことは、気象や地理を学ぶきっかけになる。

い遊びを楽しむ。冬は水温が低いので海遊びの代わりに水族館に行つて魚を眺める。そして群馬に戻つたら葉山ではできない登山やスキーを楽しむ。

が整備されている。一方、長野では山に囲まれた町村が多く、そこでは山道に沿つて山を生業とする人々の暮らしが息づいている。見通しが悪いカーブで猫にも声をかける優しさは、長野ならではの光景と思つた。

それぞれ、その地に合った生活や遊びがある。群馬の未来を担う子どもたちには、日本や世界の

務めだと思つた。

3月は卒業のシーズン。かわいい子には旅をさせよう。行つたきり戻らない心配もあるけれど、上毛かるたで郷土愛を育んだ群馬っ子たちは必ず戻つてくると信じて、その日を楽しみにしながら古里を守ることが親や社会の務めだと思つた。

肥後秀明 (ひご・ひであき)

1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを

経て2022年4月から現職。

